

早稲田大学法学部レポート

選択肢「□」があるものについては、ご希望のものを「■」へご変更ください。

科目名	哲学・思想 IA		曜日・時限	木曜日・2限
担当教員	守中高明			
受付期間 (24時間表記)	開始：1月13日(火)00時00分～締切：1月20日(火)23時55分			
提出先	■ Waseda Moodle			
	用紙サイズ	A4		
	ファイル形式	Word (.doc .docx)		
	字数制限	2,800字～4,000字程度（超過も可）		
書式	その他指定	★レポートの記述に際してChatGPT等の生成AIを使用することは、厳に禁止する。生成AIによる解答は代作・盗作であり、不正行為に該当し、処分対象となる。 ★引用文献・参考文献については必ず出典（筆者・タイトル・ページ）を明記すること。レジュメからの引用についても同様（「第■回講義レジュメ、p.■ ■」）。 ★Webサイト上の記事のみを引用文献・参考文献とすることは禁止する。ただし、Web上に公開された学会誌・研究ジャーナル・大学紀要の学術論文はこの限りではない（掲載媒体名・発行機関名等を明記すること）。 ☆みずからの思考力・言語能力を鍛える機会としてこのレポート執筆を最大限に活かすべく、能動的に取り組まれたい。		

課題内容	<p>「「すべての生成AIは嘘つきである」と生成AIは言う」——この一文を前提とするとき、生成AIが言うことは真実か虚偽か。</p> <p>この問い合わせに答え、かつ、あなたがその答えにいたった理由を簡潔に（10行以内程度で）記したうえで【共通設問・解答必須】、つぎの設問のうちから1つを選択し、解答しなさい（どの設問を選択したかを冒頭に明記すること）。</p> <p>（1）「もし、規則が確固たる仕方でその解釈を保証するとすれば、そのとき裁判官は計算する機械である」（ジャック・デリダ）。この一行を踏まえて、裁判官が「計算する機械」でないとすれば、それは裁判官がどのような存在である場合か。ジャック・デリダの哲学を参照しつつ論じなさい。</p> <p>（2）法秩序における「例外状態」が発生するとき、それは法秩序そのものにとってどのような意味と価値をもつか。カール・シュミット、ヨルジ・アガンベンらの理論を踏まえて論じなさい（その際、現在この国で議論されつつある憲法改定における「緊急事態条項」新設の問題点を、必ず視野に入れること）。</p> <p>（3）パレスチナ・ガザ地区におけるイスラエルの国家暴力によるジェノサイドを前にして「歓待」の精神はどのように現実化され得るか。エマニュエル・レヴィナス、ジャック・デリダらの思考を参照しつつ、この問い合わせについてのあなた自身の答えを記しなさい。</p> <p>（4）「赦し得ぬものを赦すこと」とは、どのような概念であり行為であるか。その法学的・倫理的な意味と現代社会におけるその実践的価値について、G.W.F.ヘーゲル、ハンナ・アーレント、ジャック・デリダらの思考を踏まえて論じなさい。</p> <p>☆注意：講義で取りあげた哲学上の議論を的確に整理・総合したうえで、独自の発展的考察がなされていることが望ましい。恣意的な感想文の類いは評価の対象外とする。</p>
------	--